

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400651	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	ライクケア株式会社		
事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森		
所在地	(〒246-0003)		
	横浜市瀬谷区瀬谷町5631-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>市民の森に囲まれ、自然を感じられる環境下に当施設があります。 心地よい気候の時期は近隣をお散歩し、季節を感じていただいております。 新型コロナウイルスの影響により、外部ボランティア活動を中止していましたが、11月より少しずつ再開しています。 個々の個性やニーズに合わせたご支援をいたします。 グループホームではありませんが、お看取りもいたします。 認知症であっても、最後まで住み慣れた地域で生活ができるような施設作りを目指しています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和3年12月21日	評価機関 評価決定日	令和4年2月15日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 「サンライズ・ホーム瀬谷市民の森」は相鉄線瀬谷駅からバスで6分、最寄の「細谷戸第一」バス停から徒歩で5分ほどの場所にある。事業所のすぐ西側には瀬谷市民の森が広がり、周辺は新しい住宅や、農地が点在する自然に恵まれた環境がある。法人は首都圏を中心に有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅を多数運営している。</p> <p>【利用者主体の取り組み】 新型コロナの影響で外出もできない中、「利用者が皆で楽しめるように」を目標に、各ユニットの利用者が共同でできることに諦めずに取り組んだ。1階の利用者は2階に比べると重介護の方が多いが、毎日行っていた「梅干し体操」を全員で行うことを目標に掲げた。今ではDVDの映像に合わせて毎日体操をしている。中には歌を口ずさみながら体操する方もいる。 2階のユニットでは看護師の指導で毎日のように鶴を折る方がいた。それを見ていた他の方たちも徐々に折り紙に取り組みようになり、今では全員が取り組んでおり、折り紙の貼り絵を共同制作した。また、利用者の共通の悩みの「排泄」をテーマに、利用者が主体の勉強会を看護師が講師になり行った。勉強会で利用者が真剣に話を聞く様子や、貼り絵の制作の様子などはブログや毎月のお便りで家族に届けられている。</p> <p>【利用者の生活習慣や思いに寄り沿った支援】 理念の「自分や自分の家族が入りたいホーム作り」を目指し、毎月具体的な接遇目標と5S1Uの重点目標を決め、利用者主体の居心地の良いホーム作りをしている。感情のコントロールが難しい方が落ち着けるように居心地の良い環境を整備し、その方が自信を持てるように、食事前のメニューの読み上げを役割りにした。事業所の近隣に住む方が、家族が亡くなったことや、物忘れが心配になり自分で見学に来て自ら入居を決めた。入居後、その方は自宅にいた時のようにホームの草むしりや花の手入れをしている。 年末恒例の宝くじや年賀状、能率手帳の購入などの手伝いをしている。新聞の通信販売を見てお歳暮を贈る方もいる。11月からは、近所への買い物も再開している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森
ユニット名	1F やわらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森
ユニット名	2F かがやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は張り出しにより常に確認できるようにしている。理念に基づいて、職員が自発的に実践・行動できるよう心がけている。	ホーム理念は「自分や自分の家族が入りたいと思うホーム作り」としてそれに向け、毎月接遇目標と、[5SIU=清潔・整理・整頓・清掃・躰・美しい]の中から1点を重点目標としホームの環境整備に取り組んでいる。職員は理念と毎月の目標に沿って、利用者のその方らしさが発揮できるように、居心地の良いホームの環境づくりを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様は旭台自治会に加入している。今年度は同じ自治会からのご入居もあり、今までのつながりが絶たれないよう支援している。	自治会費を事業所が負担し、入居時に自治会に加入をしている。敬老の日には自治会から利用者全員にお祝の赤飯と紅白のお饅頭が届いている。自治会長が度々ホームの様子を見に立ち寄り、地域情報などを教えてくれる。11月から近くのコンビニやドラッグストアへの買い物も感染対策をして出かけるようになった。現在友人や知人の面会は控えてもらっているが、歌やオーディオンのボランティア2組との交流が再開した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域との交流は減っている。どのような地域貢献ができるか模索中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議は書面開催となった。出来るだけ個々のご家族様と連絡を取り、お話をさせていただいている。	運営推進会議は今年度も書面開催としている。事業所の運営や活動に関心を持っていただくために全利用者の家族にも報告書を送付している。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>今年度も瀬谷区の地域密着型サービス連絡会の役員を務めている。役員会を通して、瀬谷区役所職員や連絡会役員同士で情報共有している。</p>	<p>瀬谷区の地域密着型事業所連絡会が9月から再開され、事業所間で情報交換ができるようになった。会には瀬谷区役所の高齢・障害支援課職員の出席もあり、顔なじみの関係ができています。担当エリアの地域包括支援センターだけでなく、周辺の地域包括支援センターに月1回訪問をして情報交換をしています。生活保護受給者の方には、区の生活支援課と連携した支援をしています。</p>	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に係る研修を実施し、常にマニュアルの内容を確認している。玄関やドアの施錠はしているが、出たいときには職員同行で出られる体制にしている。	身体拘束適正化委員会は管理者、リーダー2名が委員となり開催し、議事録を職員に回覧して周知している。職員は年2回、自己点検シートでチェックをして自分のケアの振り返りをしている。点検シートは法人が回収して共有し、内容によっては職員にヒアリングをしている。職員は利用者が少しでも苦痛に感じる事のないケアや声掛けの実践に努めている。ホーム内は自由に行き来でき、外に出たい時には出られる環境がある。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、虐待防止の知識向上に努めている。職員同士でも、不適切な対応がないか、確認をしてもらっている。	感情のコントロールが難しい利用者への職員の対応について、虐待防止の観点から職員間で話し合いをして適切な対応を探している。その上で、その対応が身体拘束や虐待に該当する事がないよう行政に相談している。行政担当者からは家族と情報共有するようにと指導があった。家族に頻繁な面会と話し合いをお願いし、連携してケアに当り、入居後2か月程して、徐々に落ち着きを取り戻した事例がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の実施で制度の理解に努めている。		

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にはわかりやすい説明と、不明点の確認を行っている。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様とは電話やメールでこまめに連絡を取り合いご本人様の状況報告をしている。ご要望もお聞きし、職員へ会議や通達にて報告している。</p>	<p>毎月ホームの行事や活動の様子を伝える写真入りの「瀬谷市民の森便り」に利用者の近況を一筆箋で添え、家族に送っている。またブログでもホームの日常の様子や行事などを見る事が出来、家族に喜ばれている。新型コロナ禍の中でもオンライン面会や窓越し面会を取り入れ、家族との関係継続を支援してきた。家族の要望を受け、11月から感染症の予防対策をして予約制の面会を再開している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、ユニット会議を設け、職員と意見交換を行っている。個人面談は必要時に行っている。	毎月ユニット会議を行いそこで出た課題などをリーダー会議で話し合っている。法人の施設長会議はweb開催になっている。職員は会議だけではなく、日々の申し送りなどでも意見交換や報告をまめにしている。職員の意見から休憩時間の取り方の変更や電気製品の購入、行事の企画などが実現している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を主体に、職員の労働環境改善に努めている。個々の事情を把握して、働きやすい環境作りを心がけている。	開設時からの職員や、勤務歴の長い職員が多く在籍している。管理者は年2回の個別面談に加え、機会をとらえて個別に話を聞いている。法人の産休、育休、介護休暇制度や、定年後の再雇用制度も整備されている。正社員には毎年誕生月に1日休暇が付与される。また、全職員に有給休暇の年度内消化を推奨し、職員間でシフトの調整などをして、有給休暇を取り易い環境を作っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得制度があり、仕事を続けながら資格取得ができる。現在は社内研修が中心ではあるが、今後は外部研修に参加して社内にも情報共有できるようにしていきたい。	法人がパート職員を正社員にする取り組みを行っている。無資格のパート職員にも初任者研修の資格取得を推奨しており、資格取得の費用を全額負担している。介護福祉士やケアマネジャー（計画作成の担当になることが前提）の資格取得にはパート職員にもお祝い金が出ている。外部研修に勤務時間内に参加し、費用を会社が負担する仕組みがある。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で、人と人が交流できない状態であり、交流が減っている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様からヒヤリングし、入居後も安心して生活ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には何でも相談していただいている。不安なことやお困りごとをよく傾聴して信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のケアプランは暫定とし、1か月～3か月で本プランを立てている。初回のカンファレンスでは職員間で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に介護される立場で考えられるよう指導を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とはこまめに連絡を取り合い、お気持ちを聞くようにしている。施設都合の介護にならないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居されてからも、今までの生活スタイルが継続できるようなサービスを心がけている。	近隣から入居した方は自宅と同じようにホームの庭の草取りや花壇の手入れをしている。以前からカップ麺を好む方は、通院先の病院の売店で購入するのを楽しみにしている。また、お歳暮を贈る方や能率手帳の購入、年末ジャンボ宝くじの購入等以前からの年末の習慣を支援している。11月以降は家族との外食や職員が同行して墓参りに出掛けた方もいる。来年は孫の結婚式に出席を予定している方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を把握して、孤独感を感じないような食席などカンファレンスで話し合う機会を増やしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にご家族様が来訪されたり、電話で相談されることがある。出来るだけ対応させていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩時や入浴介助の際にお話を聞きながら、個々の思いやご希望などの把握に努めている。	職員と1対1になる時に日頃は口にしない本音が出るが多々ある。自立度の高い方程話をしたい思いが強いため入浴時間が長くなることもある。利用者の思いや意向の他に、他者に対する愚痴もあり、話すことによるストレス軽減に繋げている。買い物に行きたい等汲み取った思いや意向は、業務日誌や経過記録に記入をして職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴はできるだけご本人様やご家族様にヒヤリングさせていただいている。職員同士、共有もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで情報共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のモニタリングやアセスメントで、個々のニーズを見出し、ケアプランへと反映している。	入居時に初回のケアプランを立案して、入居後1か月から3か月で本プランに移行している。半年に1度プランの確認を行い、通常は1年で見直しをしている。毎日ケアプラン実施状況チェック表でサービス内容を確認しながらケアに当たっている。居室担当者がモニタリングを行いアセスメントにも参加している。ケアプランの見直しには家族や利用者の意向を確認して担当者会議を行い、プランの作成をしている。	

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランチェック表で毎日モニタリングを行い、月末にはコメントを入れてケアマネージャーに報告している。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設でのサービスなど情報交換し、多機能化をすすめたい。現状はまだまだ実績が少ない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会で手入れをしている花壇の鑑賞や、イベント時に贈り物をいただく機会がある。地域の活動の参加はできていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の協力医療機関の内科往診のほか、精神科や皮膚科の往診もある。外部にかかりつけがある場合は、場合により職員が同行している。	協力医の内科往診を月2回全員が受けている。その他に精神科月1回、皮膚科月1～2回の往診もある。非常勤のベテラン看護師は、往診の立ち合いや、かかりつけ薬局との連携、服薬管理を担っている。また利用者の健康管理とともに職員の健康管理や医療相談にも応じている。協力医、看護師ともに24時間オンコール体制がある。訪問歯科医が初回は無料で検診している。治療が必要な場合は個別契約している。往診でレントゲンや抜歯、治療や口腔ケアに対応してくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様の日々の健康管理を行い、24時間オンコール可能。勤務は週に1日。薬の管理やサマリー作成の合間に、ご利用様のレクリエーションや研修も行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>基本的には入院時にご家族様に対応していただくが、病院とのやりとりや情報提供は職員が行っている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご本人様やご家族様の意向を確認しながら、ケアの方向性を決定している。医師からご家族様への病状説明のマネジメントにも努めている。	従来は入居時に重度化した場合の事業所の対応を説明し、重度化が進み、終末期が近くなった時点で医師を交えて話し合いを持っていたが、新型コロナ禍においては入院などの場合も考慮して早めに家族と話し合い、意思確認をしている。看取りを希望する場合は「看取り介護の指針」を説明して同意を得て、看取り介護に入っている。今年度も2名の方を看取った。ベテランの経験豊富な職員が若い職員のフォローに当たっている。看取りの研修は職員の実務経験を基にした内容でグループワークも行っている。エンゼルケアも看護師の指導で職員が担当している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や事故発生時の連絡・対応はマニュアル化している。いざというときに慌てないように研修も行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施。消火器の使い方や、避難経路で迷わないように訓練している。	今年度は8月に日中を想定した避難訓練と水消火器を使った訓練をしている。建物の平面図に避難経路を書き込み、DVDを見ながら訓練を行った。12月には夜間想定訓練を行う予定にしている。詳細な災害時マニュアルが整備され、マニュアルに沿った訓練や法人全体の職員を対象とした集散訓練も今後行う予定である。備蓄品は自治会からの提供もあり、現在総量や内容を見直し、入れ替えを実施している。	以前消防署から近隣への協力要請を提案されていますが、近隣に民家が少ないことから実現に至っていません。他の方法として、近くのグループホームや特別養護老人ホームと非常災害時の協力関係を構築されることや、自治会との相互協力体制や消防団への協力要請などが考えられます。実現に向け、先方と話し合いを持たれることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を定期的に行っている。施設内のラウンドでは、きちんとプライバシーが守られているかチェックしている。	利用者の個性や自尊心を尊重して、その方が活躍できる役割を持ってもらうことや、好きなことが継続できるような支援をしている。接遇研修は、利用者に対してだけでなく家族への節度ある対応を重視して行っている。職員はトイレ誘導時の声掛けや、トイレ内の排泄用品の収納など利用者の羞恥心に配慮した支援を心掛けている。個人情報保護の観点からタブレットの保管やパソコンのパスワード管理、通院時の保険証等の持ち出しなどはルールを決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がご家族様の代わりになり、何でも話せるような環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けない介護サービスを提供している。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>お化粧品の購入や、新しい衣類購入のお手伝いを行っている。訪問理美容も3ヶ月毎に依頼し、染髪や髭剃りも行っている。</p>		
40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の下処理からお手伝いしていただくこともある。テーブル拭きや後片付けも、皆様の日課になっている。</p>	<p>毎日の食事の主菜は委託先から調理済みの物がチルドや冷凍で届き、湯煎で温めて提供している。ご飯と汁もの、副菜は事業所で調理をしている。入居前の朝食はパン食だった方が多くいるため「パンの日」を設け、パンを焼くためにオーブントースターを購入した。行事食は新型コロナ禍前は外食に出掛けていたが、現在は利用者の希望でテイクアウトの寿司などを利用している。誕生日には特別メニューを職員が手作りしている。すいとんを作った際は、利用者から「懐かしーね」と喜ばれた。デザートは食べやすいプリンやムースに果物や生クリームで飾り付けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や、食事時間、食事形態を考え、個別に支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。月に4回の歯科往診があり、義歯作成や虫歯治療も受けられる。			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあった排泄方法で支援している。	排泄チェック表の記録をもとに、その方のパターンに合わせて誘導してトイレでの排泄を支援している。布パンツを履き自立でトイレに行かれる方が4名、その他の方はリハビリパンツを使用しているが、誘導や自立でトイレに行っている。自分でリハビリパンツの交換をする方には職員が尿量や、便失禁などの確認をしている。トイレ介助は同性介助を基本にしている。夜間は一人ひとりに合わせて無理のないようにポータブルトイレや夜間だけオムツを使用する方もいる。トイレ内は整理整頓や清掃が行く届き、アルコール消毒で感染症対策をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談し、薬の調整を行っている。自然に排便できるように適度な運動やマッサージも行っている。			

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本週2回の入浴となる。体調不良、拒否がある場合は清拭や日程変更もある。 ゆず湯などの季節のお風呂も楽しめるよう支援している。</p>	<p>入浴は週2回、午前1名、午後2名を基本としている。できるだけ同性介助に配慮している。入浴を好まない方もいるが、誘い方次第で入ってくれる。1階には座面から湯が出るシャワー浴マシンがあり、浴槽に入れない場合に使用している。また、浴槽は左右から介助ができ、片麻痺の方も入りやすくなっている。浴槽の湯はかけ流しで清潔の保持に努めている。5月の菖蒲湯や利用者の自宅に実る柚子で柚子湯を楽しんでいる。冬場は脱衣場の大型のエアコンでヒートショックに備えている。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしていたが、夜間には安眠できるよう支援している。眠れない方にはリビングで職員が話し相手になることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に服薬時は見守りか、服薬介助を行っている。誤薬事故防止研修も行い、服薬チェックシートなるものを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことを探ったり、生活の中でご自身の役割を持っていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は近所へお買い物のための外出が多い。年に数回のお墓参り同行もある。	事業所の西側にある「瀬谷市民の森や」には春のお花見に出かけている。すぐ近くの公園や、自治会が管理している花壇の花を眺めに天気の良い日には車いすの方も散歩に出掛けている。用務担当の職員が、庭の花壇に季節ごとの花や夏野菜などを栽培して利用者を楽しませている。11月から感染症対策をして、近所のコンビニやドラッグストアへの買い物を再開した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期購買のお茶や、カップ麺購入、宝くじ購入などを希望される方には、職員がお買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙、年賀状、電話連絡などのご希望があれば、スムーズに行くよう職員がお手伝いをしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明るさや、掃除機やテレビの音などが不快にならないよう、皆様にお聞きしながら調整している。トイレやふる場などは分かりやすいよう張り紙をしている。	日当たりの良いリビング兼食堂のあるフロアには、季節に応じた飾りつけをして季節感を演出している。折り紙レクで作った作品を利用者の展示コーナーに飾っている。玄関には絵の得意な職員の絵が飾ってある。日中リビングで過ごす方が多いが、一旦14時からおやつ時間までは居室に戻り、一人の時間を過ごしてもらっている。共有空間は温度管理をし、加湿器、ウイルス対応の機器を置き感染症対策をしている。また時間を決めた換気にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のお好きな場所で過ごしていただいている。相性の良さ悪しもくみ取り、食席は特に配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は安全面を考慮しながら、お好きなようにものを配置していただいている。	居室はエアコン、介護用ベッド、クローゼット、照明、防災カーテンが備えてある。自宅から小さなテーブルや椅子、鏡台などや、テレビ、カレンダー、時計など使い慣れたものを持ち込んでいる。家族がテレビ台などを作る方もいて、自宅に近い雰囲気になっている。自作の塗り絵や縫いぐるみ、家族の写真を飾った部屋で利用者は編み物をしたり、好きなテレビを見たりしてそれぞれの時間を過ごしている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はできるだけスッキリさせて、混乱しないよう配慮している。		
----	--	---	---------------------------------	--	--

目標達成計画

事業所名 サンライズホーム 瀬谷市民の森

作成日 2022年3月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策、避難の際の地域との協力体制の構築。	自治会との相互協力体制や近くのGや老人ホームとの協力関係を構築する。	自治会や近くの施設と合同で訓練を行う。また消防団の見直しを行い訓練に活かす。	1年間
2	4	2020年のコロナ禍で市町村との連携が取れない。	Gや地域密着型サービス連絡会や研修などに、不長以外の職員も参加していく。	連絡会・研修の参加。 WEBでの参加も進めていく。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。